

第106回 調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 議事録

日時：2025年2月17日（月） 18：00～19：00

場所：電力広域的運営推進機関 会議室O（Web 併用）

出席者：

大橋 弘 委員長（東京大学 副学長 大学院経済学研究科 教授）

松村 敏弘 委員（東京大学 社会科学研究所 教授）

秋元 圭吾 委員（（公財）地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー・主席研究員）

小宮山 涼一 委員（東京大学大学院 工学系研究科 教授）

安藤 至大 委員（日本大学 経済学部 教授）

馬場 旬平 委員（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授）

オブザーバー：

池田 克己 氏（㈱エネット 取締役 東日本本部長）

市村 健 氏（エナジープールジャパン㈱ 代表取締役社長 兼 CEO）

岸 栄一郎 氏（東京電力パワーグリッド㈱ 系統運用部長）

野村 京哉 氏（電源開発㈱ 取締役 常務執行役員）

藤岡 道成 氏（関西電力送配電㈱ 理事）

増川 武昭 氏（㈱太陽光発電協会 事務局長）

黒田 嘉彰 氏（電力・ガス取引監視等委員会事務局 ネットワーク事業監視課長）

山田 努 氏（資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギーシステム課長）

中富 大輔 氏（資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 電力基盤整備課 電力供給室長）

配布資料：

（資料）議事次第

（資料 1）供給信頼度評価の課題整理について

議題1：供給信頼度評価の課題整理について

- ・事務局から資料1により説明を行った後、議論を行った。

〔確認事項〕

- ・事務局の整理に基づき、暫定的な必要供給力の算定手法を導入する方向で進める一方で、今後の恒久的な必要供給力の算定手法の構築に向けたEUEツールの改修等も含めて検討を進める。

〔主な議論〕

（岸オブザーバー）ご説明いただき感謝する。今回ご提案頂いた月の前半後半での需要傾向の違いを考慮した必要供給力の設定並びにEUE評価におけるツール改修までの暫定的な対応について、方向性に異論はないが、1点発言させていただく。21ページの5ポツ目に実務的には補修停止時期を適

切に調整することが必要であり、今後検討を深めていくことが必要と記載いただいている通り、今回の整理は前後半の需要傾向に応じた補修調整が前提となっている。言い換えると、適切な補修調整がなされない場合には、この評価では供給力が不足することになるため、補修調整が非常に重要になると認識している。また、21ページの4ポツ目では、6月以外の月も前半後半で需要傾向が異なることはあるものの、6月ほど顕著な違いが表れていないと記載いただいているが、補修停止の偏り、すなわち供給力の偏りについては6月以外の月でも発生しており、月平均の供給力評価では日単位での供給力と乖離が大きくなるといった課題も顕在化している。加えて、前回の本委員会でも発言させていただいたが、発電機の補修調整には地域間連系線の作業停止影響も考慮する必要がある。特に東京エリアに関する地域間連系線に関しても、2026年3月から6月に長期間の作業停止が予定されているなど、大きな影響が想定される。これらのように補修調整には課題が多いことから、具体的な補修調整の仕組みについては引き続き検討をお願いしたい。一般送配電事業者としても検討に協力する。

(小宮山委員) ご説明いただき感謝する。今回のご提案大変良い暫定対応と捉えており、全て賛同する。今回、6月を前半と後半に分けて需要想定行い、厳気象対応分の供給力を見積もっていただいた。供給力としても以前より抑制できたということで、大変良い提案だった。また、14ページの左側のグラフにおいて、6月の前半と後半で気温の上昇によって需要傾向の変化が現れている。見方によって、前半後半に分ける見方、もしくは上旬中旬下旬に分ける見方、週間毎に分ける見方等様々ある一方で、ある程度の幅をもって見る観点を考慮すると、あまり細かく分ける場合には不適合な部分も出てくると捉えている為、今回ご提案いただいた前半後半の分け方は不確実性を踏まえれば大変合理的なご提案だと認識している。そういった点を踏まえて、今回の手法に賛同する。一方で、記述の通り、EUE評価のツールの改修については継続的に検討いただきたい。また15ページにおいて、今回は春から夏といった軽負荷期から重負荷期への移行期間について検討いただいたが、今後は秋から冬への軽負荷期から重負荷期への移行期間についても、今回ご提案いただいた前後半で供給力を見積もることでより合理的な必要供給力を見積もれるかどうか検討いただきたい。このグラフを見る限り春から夏に比べれば、秋から冬については気温感応度では少し低めになる為、もしかすると必要ないのかもしれないが、そういった点も検討いただきたい。最後に、容量市場への適用については纏めのページで記述いただいた通りと認識している。容量市場の場合、数年前から前もって必要供給力を見積もる必要があると認識している。恐らく確率論と確定論のバランスをよくとりながら見積もることが大事だと認識している。こちらも記述の通り別途検討していただきたい。

(秋元委員) ご説明をいただき感謝する。前2人の委員オブザーバーと重複する部分もあるが、14ページについて10月を懸念しており、10月も前半後半で分けていくことも今後の検討課題だと捉えている。また21ページで、6月前半に補修調整を寄せる場合、岸オブザーバーのご指摘の通り、調整が厳しくなる可能性があるかと捉えている。そこに関してもよく検討する必要がある。今回のご提案自体は基本的に賛成する一方で、9ページで広域手法も一定の合理性があると記載いただいているが、他方で目標調達量が160万kWも増えることに対するコスト増を懸念しての今回のご提案であることは理解できる為、賛成する。しかし、昨年10月も非常に暑く、6月も過去の気象からすると6月後半に気温が上昇していることは把握できるが、これだけ気候変動の影響が出てきている中

で、将来的にはいつ気温のピークが来るか想定しづらく6月前半にピークが来る可能性もある。場合によっては、10月後半にも別の状況が出てくるかもしれない。そういったリスクがある際に、細かく刻むことが本当にリスク対応として妥当なのか懸念が残る。気候変動による危険性をしっかり理解した上で、今回の対応について引き続きよく精査をしていく必要があると捉えている。今回の対応については賛成する一方で、気候変動の状況が不安定であることから、しっかり状況を見てリスクに対する対応を怠らないようにする必要がある。

(池田オブザーバー) 丁寧なご説明に感謝する。今回、2022年6月の実績を厳気象H1需要算定に簡易的に織り込みつつ月前半と後半分けて考えることで、容量市場の目標調達量が徒に増加しないような提案をいただいた点は本当に感謝する。その上で、この場の議論が適切かといった点はあるが述べさせていただく。先日公表された2028年度の実需給のメインオークションでは、東日本エリアの約定価格が上限価格となり、尚且つ、データセンター等による需要の増大や老朽火力の退出などが進んでいくと想定されると考えると、今後も高値が継続することが懸念される。本件、国の審議会でも議論があったと認識しているが、例えば、稀頻度リスク対応分は別オークション化してシングルプライスを避ける等、今後予定されている広域機関の容量市場の包括検討において、過度な負担にならないよう根本的な議論を是非お願いしたい。

(事務局) 様々なご意見いただき感謝する。1つつ回答させていただく。岸オブザーバーからご指摘いただいた通り、今回の6月の件に限らず補修調査のあり方については今後も引き続き検討を進めていく。次に小宮山委員にご指摘いただいた通り、需要算定の範囲をさらに細分化するとより精緻化できるのではないかとご意見もあると思うが、確率論である以上、不確実性があるため、こちらも仰る通り前後半までの細分化とさせていただいた。また、秋元委員にご指摘いただいた今後の気候変動を踏えると6月前半も高需要が出る可能性が十分考えられる、というご指摘はご尤もであるところ。これについては、将来の気候変動を踏まえた上での需要算定の在り方も考えていく必要があるか。最後、池田オブザーバーからのご指摘について、必要供給力の目標調達量が増加する結果になっており、この結果も含めて、容量市場での調達にかかる費用が事業者への過度な負担とならないようすることについても広域機関として引き続き検討していく。

(大橋委員長) 本日の議題は供給信頼度評価の検討事項の1つである6月の厳気象H1想定に関する論点を提起していただいた。今回、EUE評価に6月の厳気象対応分を反映するに当たって、その月の前半と後半に分けて分析を行うことで、一定程度の工夫を事務局にさせていただいた。委員オブザーバーからは補修調整のあり方や需要算定の分割幅、容量市場についての言及があった。現況としては暫定的な手法であることから皆様方からは概ね反対はなく支持されていると認識し、引き続きこの方向で事務局にご検討いただく。他方で、今回の算定方法は暫定であることから、今後恒久的な方法に繋げていく必要がある。また、その場合にはEUEのツール改修なども想定され、改修コストも含めて全体的な検討をすることが重要だと捉えている。いずれにしても検討を深めていただくよう進めていただきたい。

(大山理事長) 本日も貴重な意見いただき感謝する。本日の議題は気象が厳しくなっていくことへの対応ということで付議させていただいた。ご指摘いただきました通り、今後更に気候変動の影響が大きくなることを踏まえて、データを見ながら対応していく必要がある。またご指摘いただいた通り、今後補修停止調整が非常に難しくなることはその通りである為、皆様のご協力いた

だきながら進めていく。本日もご議論いただき感謝する。  
(大橋委員長) それではこれにて本日の委員会を終了させていただく。遅い時間にも関わらずご参加  
いただき感謝する。

本日の議題は全て終了した。

以上